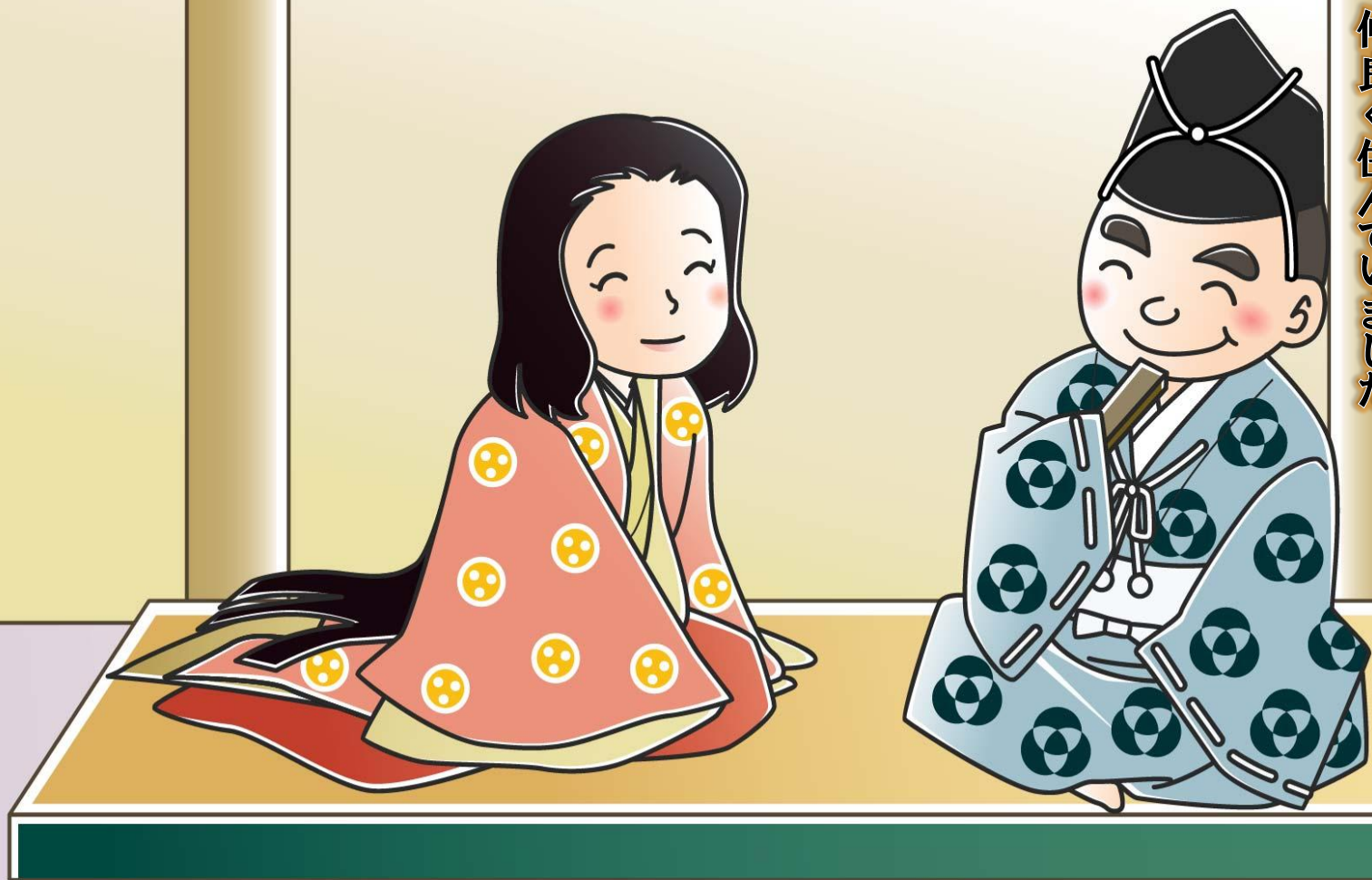


むかし、墨田五郎時光(すだごろうときみつ)
という人が住んでいました。

時光は奥さんと

仲良く住んでいました。



あるとき、

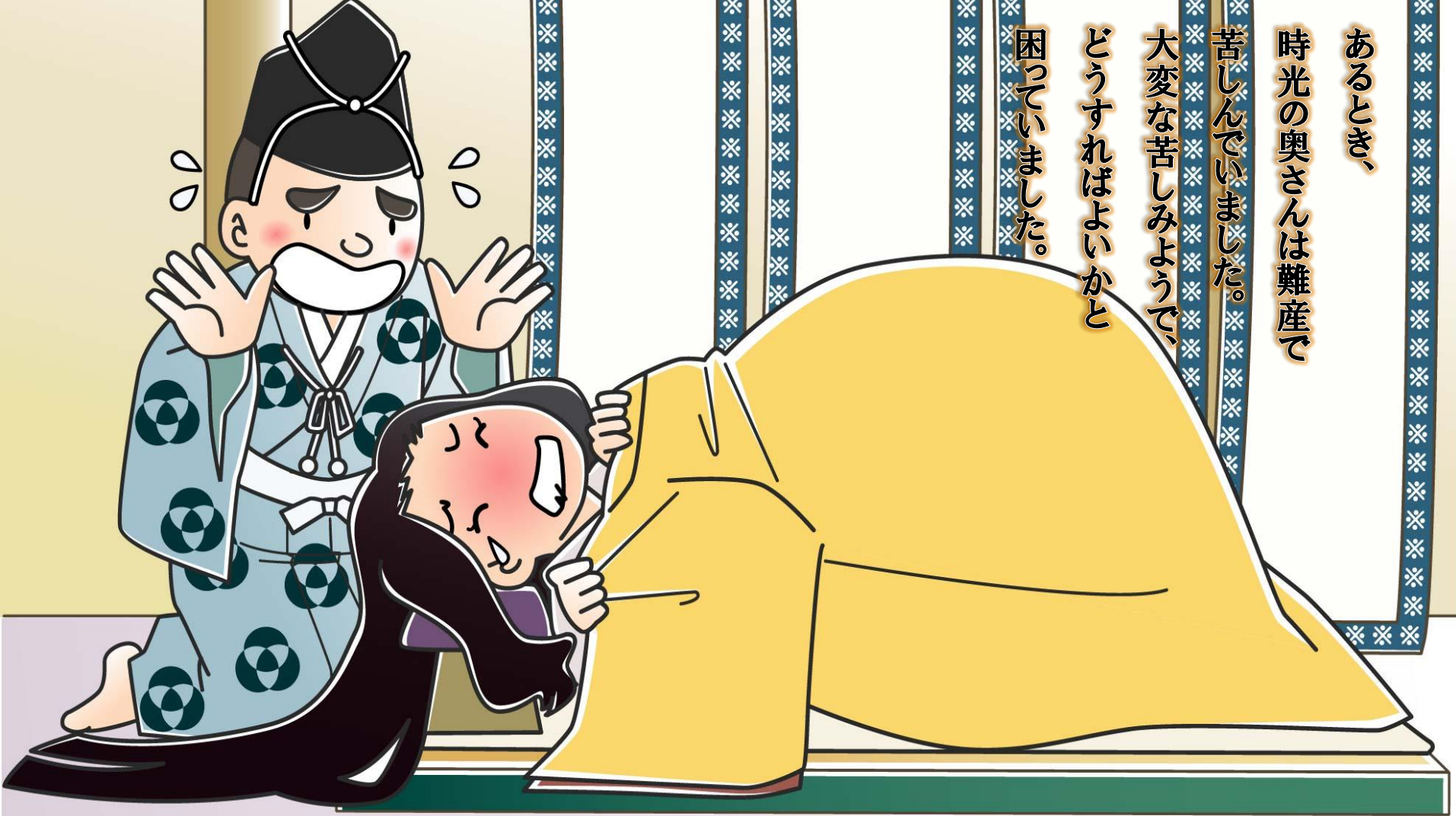
時光の奥さんは難産で

苦しんでいました。

大変な苦しみようで、

どうすればよいかと

困っていました。



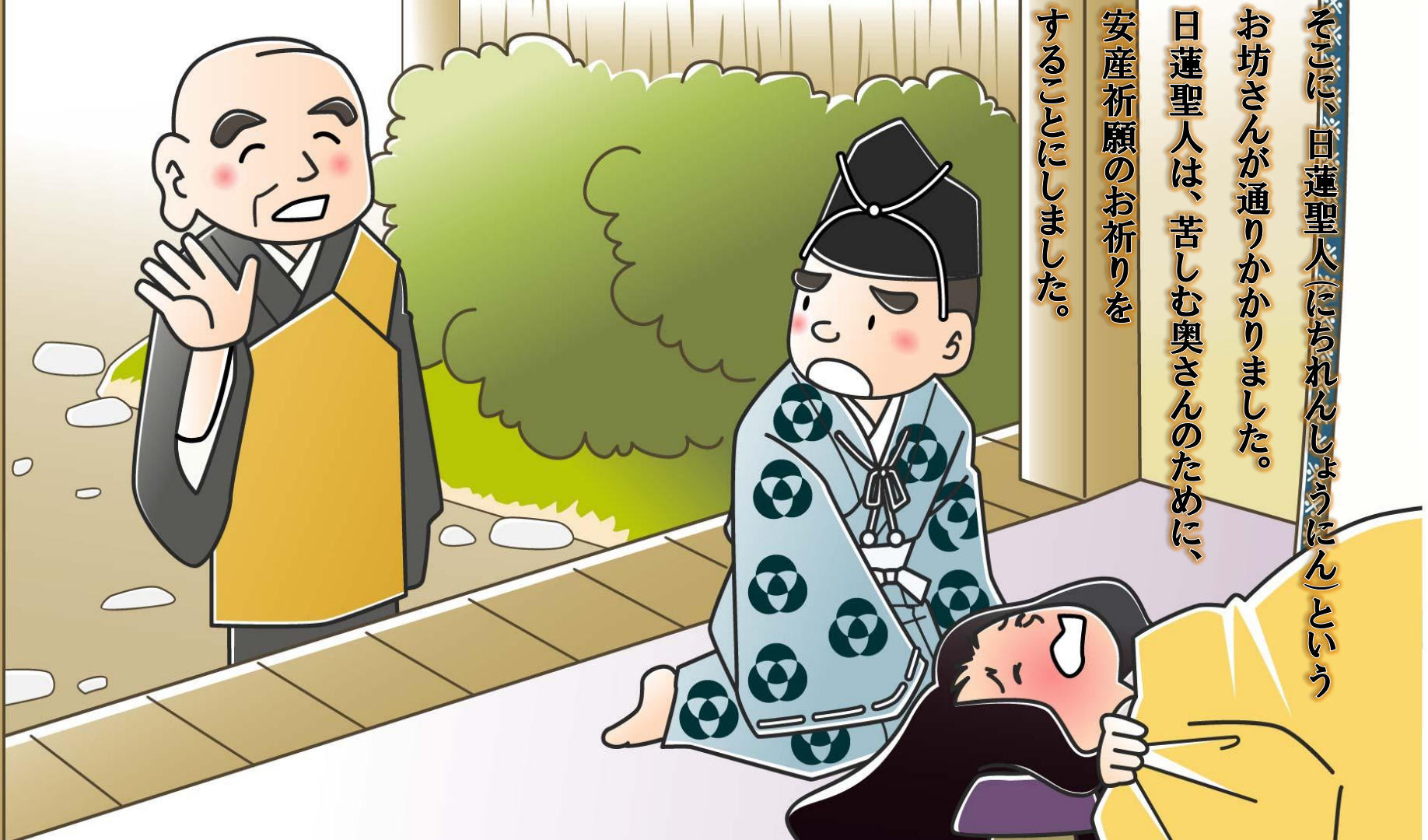
そこに、日蓮聖人(にちれんしょうにん)という

お坊さんが通りかかりました。

日蓮聖人は、苦しむ奥さんのために、

安産祈願のお祈りを

することになりました。



日蓮聖人は、

懐に入っていた楊枝（ようじ）を使って、

地面のくぼんでいるところを

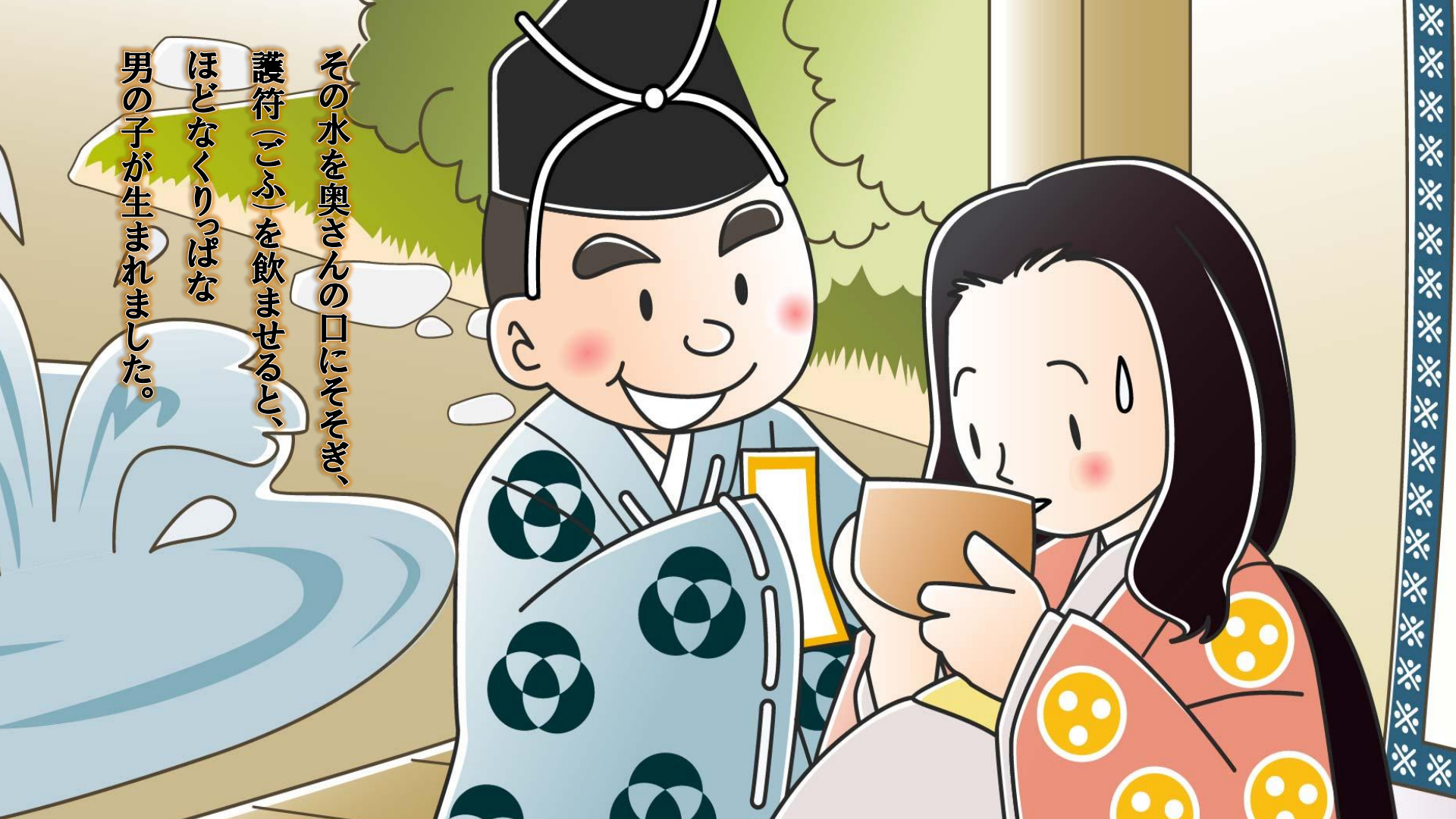
つつきました。

すると、そこからきれいな水が

湧き出してきました。



その水を奥さんの口にそそぎ、
護符(ごふ)を飲ませると、
ほどなくりっぱな
男の子が生まれました。



もっていた楊枝は柳となり、
池はその後枯れずに残り、
子安の池と呼ばれるようになりました。

